



T.Miki

## THE KEIO HAI NISAI STAKES

## 第61回 京王杯2歳ステークス (GII)

1着 2着 3着 4着 5着  
本賞 38,000,000円 15,000,000円 9,500,000円 5,700,000円 3,800,000円  
付加賞 560,000円 160,000円 80,000円



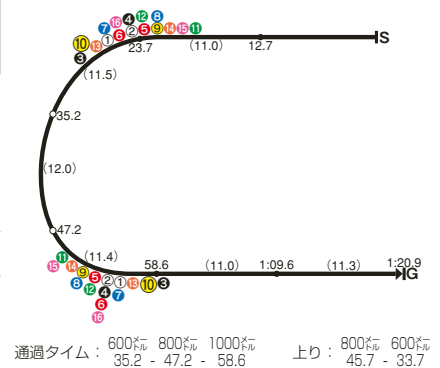
レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

2歳、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 馬齢重量

2025.11.8 東京 晴・良 芝1400m (国産) (指定)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑩	ダイヤモンドソット	牡	2	56	C.ルメール	1:20.9	2-2	33.6	468(-6)	1.8(1)	福永祐一(栗東)	110
2	⑫	フクチャンショウ	牡	2	56	戸崎圭太	3	10-10	33.5	444(+12)	19.7(9)	加藤征弘(美浦)	104
3	④	トワニ	牡	2	55	菅原明良	クビ	14-14	33.0	416(±0)	67.4(4)	蛭名正義(美浦)	101
4	②	シャオマママル	牡	2	56	A.ブーサン	ハナ	8-6	33.6	432(-4)	14.6(3)	加藤士津八(美浦)	103
5	③	ルートサーティーン	牡	2	56	岩田康誠	アタマ	1-1	34.3	476(+4)	12.0(4)	辻野泰之(栗東)	
6	⑦	ユウファラオ	牡	2	56	北村宏司	1¼	4-4	34.1	486(+4)	36.5(1)	森 秀行(栗東)	
7	⑤	リネンタイリン	牡	2	56	柴田大知	½	15-15	33.3	464(-2)	351.4(4)	南田美知雄(美浦)	
8	⑧	ホットットロット	牡	2	56	石橋 脩	アタマ	12-12	33.6	452(+8)	70.7(3)	堀内岳志(美浦)	
8	⑬	レッドスティンガー	牡	2	56	横山和生	同着	6-6	34.1	468(+6)	8.2(3)	矢嶋大樹(美浦)	
10	⑥	シュペルリング	牡	2	56	津村明秀	1¼	6-6	34.3	428(-6)	7.6(2)	嘉藤貴行(美浦)	
11	①	ネネキリマル	牡	2	56	佐々木大輔	ハナ	4-4	34.4	472(±0)	19.5(7)	河嶋宏樹(栗東)	
12	④	ミルトベスト	牡	2	56	横山武史	ハナ	8-6	34.3	468(-2)	12.1(5)	中村直也(栗東)	
13	⑤	シーモハットク	牡	2	56	三浦望成	クビ	10-10	34.0	486(-2)	31.4(4)	寺島 良(栗東)	
14	①	フォトンゲイザー	牡	2	56	木幡巧也	1¼	16-15	33.6	430(+2)	230.0(9)	牧 光二(美浦)	
15	⑨	フェーダーローター	牡	2	55	原 優介	1¼	3-3	35.0	444(±0)	64.5(1)	天間昭一(美浦)	
16	⑨	コックオーヴァン	牡	2	55	松岡正海	3	12-12	34.8	464(+4)	90.3(3)	伊藤伸一(美浦)	

単勝⑩180円(1¼%) 複勝⑩130円(1¼%) ⑩380円(7¼%) ⑩760円(11¼%) 枠連⑤-⑩1,480円(5¼%)  
馬連⑩-⑩1,510円(6¼%) ワイド⑩-⑩640円(6¼%) ⑩-⑩1,880円(19¼%) ⑩-⑩6,640円(60¼%)  
馬単⑩-⑩1,940円(6¼%) 3連複⑩-⑩14,310円(45¼%) 3連単⑩-⑩37,670円(117¼%)



### アラカルト

- ・C.ルメール騎手はモントラizeで制した20年に続く京王杯2歳S5勝目で、自身の持つ騎手最多勝記録を更新。JRA重賞は25年10勝目、通算169勝目
- ・福永祐一調教師は京王杯2歳S初勝利。JRA重賞は25年初勝利、通算3勝目
- ・ブリックスアンドモルタル産駒はJRA重賞通算2勝目

# ダイヤモンドノット *Diamond Knot*

牡 栗毛 2023.3.29生

北海道平取町 坂東牧場生産

馬主・金子真人ホールディングス(株) 栗東・福永祐一厩舎

馬名意味・紐の端に飾りの輪を作るための結び方

リアルナンバークラス F1-m

ブリックスアンドモルタルUSA Bricks and Mortar 黒鹿毛 2014	Giant's Causeway 栗毛 1997	Storm Cat
		Mariah's Storm
	Beyond the Waves 黒鹿毛 1997	Ocean Crest
		Excedent
エンドレスノット 鹿毛 2009	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA
		ウインドインハーヘアIRE
	ウィキウィキ 鹿毛 2004	フレンチデピュティUSA
		リアルナンバークラス

5代までのインブリード：Storm Bird S4×S4

## INTERVIEW

荒木一仁マネージャー(坂東牧場)

### ポテンシャルが高く期待していました

本馬の能力を全開にしたレースだったと思います。生まれた頃からしっかりとした馬体で気が強い性格でしたが、ポテンシャルが高く期待していた馬。後期育成までをこちらで行いましたが、福永調教師とコミュニケーションを取りながらうまく引き継ぐことができました。次走はG I かもしれませんが、牧場としては平地G I 未勝利ですので頑張ってもらいたいと思います。

Photostud



先遣役を務めたのは、内めの枠から軽く気合をつけられてスピードに乗ったルートサティーン。互角以上の勢いで飛び出したダイヤモンドノットの差に突き放して勝利を飾った。ブリックスアンドモルタル産駒の本馬は6月に阪神・芝1200mの新馬戦でデビュー(3着)、距離を1400mに延ばした3戦目に初勝利。続くもみじSでは逃げ切った勝ち馬を捉え切れなかったものの、3着以下は5馬身離し、高い素質の一端は示した。この日は初の左回りコース、「キャリア4戦以上の馬は苦戦(優勝は2011年のレオアクティブが最後)」という近年のレースの傾向も問題とせず完勝。マイルの距離にも十分なメドを立てる内容で初の勲章を射止め、朝日杯フューチュリティSの有力候補の1頭に浮上した。

## 父ブリックスアンドモルタルUSA

北米13戦11勝(BCターフ<sup>G1</sup>、ペガサスワールドCターフ<sup>G1</sup>、オールドフォレストターフクラシックS<sup>G1</sup>、アーリントンミリオン<sup>G1</sup>、マンハッタンS<sup>G1</sup>、ムニスメモリアルH<sup>G2</sup>、競馬博物館名譽の殿堂S<sup>G2</sup>)、米年度代表馬、米芝罌馬チャンピオン、20年から供用

〔代表産駒〕アンモシエラ(JBCレディスクラシック<sup>Jh</sup> I 2回、ブルーバードC<sup>Jh</sup> III、羽田盃<sup>Jh</sup> I 2着、京浜盃<sup>Jh</sup> II 2着、クイーン賞<sup>Jh</sup> III 2着、東京ダービー<sup>Jh</sup> I 3着、エンプレス杯<sup>Jh</sup> II 3着)、ダイヤモンドノット(本馬)、イーグルノワール(兵庫ジュニアグランプリ<sup>Jh</sup> II、全日本2歳優駿<sup>Jh</sup> I 2着)、ゴンパデカーブス(サウジアラビアロイヤルC<sup>Gm</sup>)、ゲルチュータル(青葉賞<sup>Gn</sup> 3着、菊花賞<sup>G1</sup> 4着)、セシリエブーシュ(フィリーズレビュー<sup>Gn</sup> 3着)、アスクカムオンモア(プリンシパルS・L3着)、クイックパイオ(ききょうS<sup>Op</sup>)

## 母エンドレスノット

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央26戦4勝(外房特別)

ゾンニヒ(18 牡父ラプリーデー)中央33戦6勝(しらかばS<sup>Op</sup>、青函S<sup>Op</sup>、若潮S、鹿野1特別、東風S・L2着、ダービー卿チャレンジトロフィー<sup>Gm</sup> 3着、淀短距離S・L3着)◎

ハッピーアズラリー(20 牝父ラプリーデー)中央25戦2勝(八代特別)

アモールエテルノ(21 牝父ラプリーデー)中央5戦0勝

チムグクル(22 牝父ラプリーデー)中央10戦1勝 ◎

ダイヤモンドノット 本馬(23 牡父ブリックスアンドモルタルUSA)中央5戦2勝(京王杯2歳S<sup>Gn</sup>、もみじS<sup>Op</sup> 2着) 獲得総賞金53,354,000円 ※17、19(不受胎)、24、25(死産)

## 祖母ウィキウィキ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央1勝。24年死亡

エンドレスノット(09 前出)

ウリウリ(10 牝父ディープインパクト)中央6勝(CBC賞<sup>Gm</sup>、京都牝馬S<sup>Gm</sup>、安土城S<sup>Op</sup>、セントウルS<sup>Gn</sup> 2着、阪神牝馬S<sup>Gn</sup> 2着)

レレマーマ(12 牝父カネヒキリ)中央3勝

マカヒキ(13 牝父ディープインパクト)中央5勝(日本ダービー<sup>G1</sup>、京都大賞典<sup>Gn</sup>、弥生賞<sup>Gn</sup>、皐月賞<sup>G1</sup> 2着、札幌記念<sup>Gn</sup> 2着、京都記念<sup>Gn</sup> 3着2回、ジャパンC<sup>G1</sup> 4着2回)、仏1勝(ニエル賞<sup>G2</sup>)、種牡馬

ナニアヒアヒ(14 牝父キングカメハメハ)中央0勝、ポルラノーチェ(ヒダカソウC、フレイラインC)の母

ウーリリ(16 牝父ディープインパクト)中央3勝(六甲S・L、毎日杯<sup>Gm</sup> 2着)

## 圧倒的な支持に応えて重賞初制覇

2025年の京王杯2歳Sは11月の2歳重賞には珍しく、フルゲート16頭を埋めた全馬が取得賞金400万円の1勝馬、重賞好走歴を持つ馬も不在というメンバー構成で争われた。新馬、未勝利戦を勝ち上がった直後の馬も9頭を数えたなか、圧倒的な支持単勝1・8倍を集めたのはもみじSの2着馬ダイヤモンドノット。キャリアを重ねつつ、着々と地力を磨いてきた同馬は、背負った期待に違わぬパフォーマンスを披露した。

先遣役を務めたのは、内めの枠から軽く気合をつけられてスピードに乗ったルートサティーン。互角以上の勢いで飛び出したダイヤモンドノットの差に突き放して勝利を飾った。ブリックスアンドモルタル産駒の本馬は6月に阪神・芝1200mの新馬戦でデビュー(3着)、距離を1400mに延ばした3戦目に初勝利。続くもみじSでは逃げ切った勝ち馬を捉え切れなかったものの、3着以下は5馬身離し、高い素質の一端は示した。この日は初の左回りコース、「キャリア4戦以上の馬は苦戦(優勝は2011年のレオアクティブが最後)」という近年のレースの傾向も問題とせず完勝。マイルの距離にも十分なメドを立てる内容で初の勲章を射止め、朝日杯フューチュリティSの有力候補の1頭に浮上した。

差に突き放して勝利を飾った。ブリックスアンドモルタル産駒の本馬は6月に阪神・芝1200mの新馬戦でデビュー(3着)、距離を1400mに延ばした3戦目に初勝利。続くもみじSでは逃げ切った勝ち馬を捉え切れなかったものの、3着以下は5馬身離し、高い素質の一端は示した。この日は初の左回りコース、「キャリア4戦以上の馬は苦戦(優勝は2011年のレオアクティブが最後)」という近年のレースの傾向も問題とせず完勝。マイルの距離にも十分なメドを立てる内容で初の勲章を射止め、朝日杯フューチュリティSの有力候補の1頭に浮上した。